

令和4年度
自己点検・自己評価報告書

令和5年6月12日

学校法人稲積学園
北都保健福祉専門学校

目 次

I	はじめに-----	1
II	評価の基本方針-----	1
III	教育関連事項における重点目標の評価-----	1
IV	項目ごとの記述-----	5
	(1) 教育理念	
	(2) 学校運営	
	(3) 教育活動	
	(4) 学習成果	
	(5) 学生支援	
	(6) 教育環境	
	(7) 学生募集	
	(8) 財務	
	(9) 法令等の遵守	
	(10) 社会貢献及び地域貢献	
V	終わりに-----	56

I はじめに

毎年、4月から5月にかけて本校の活動全般に関する自己点検・自己評価をまとめていく際、確実に進んだことを大いに評価しながらも、さらなる改善のための具体策を講じていく必要性を感じてしまう。一方、予想に反してそれほど効果が上がらなかったことや大きく後退してしまった活動も明らかになるため、本校の教育活動と学校経営の両面からバランスよく改善を進める困難さを実感する瞬間である。

相変わらず、コロナ禍は今年度（2022年度）終了時点で、丸3年以上も大きな影を落とし続けている。本校の授業や学校行事で多くの制約を受けてしまい、コロナ禍以前と同じような教育活動ができない状態が続いているからである。私たち教職員はそれなりの創意工夫を重ねながら教育活動を継続してきたと自負する面も少なからず存在するが、その間、本校で学び、巣立って行った学生の皆さんには申し訳なきを感じながら三省することは少なくない。

本報告書では、まず、基本方針を明記し、重点目標の評価を記載している。その後、52項目にわたる詳細な自己点検・自己評価の結果を掲載した。評価点は4点満点で判定している。この評価は理学療法学科や作業療法学科が受けている第三者評価方式と共通しているため、そのままの形式を利用している。また、本評価の抜粋を作成し、例年、学校関係者評価報告書に記載している。これは、本校の自己点検・自己評価と学校関係者からの評価点を比較することで、その差異から見えてくる反省点や改善点を明確にできるからである。さらなる学校教育や事業改善に向けた対応を目指していきたいと考えている。

II 評価の基本方針

本校の3つの教育目標である「信頼されるプロに育てる」、「学生と教員もお互いに学びあう」、「チャレンジを楽しめる教育を提供する。」に基づき、教育活動や学校運営の改善に取り組んできた成果を、以下に簡潔にまとめた。

III 教育関連事項における重点目標の評価

重点目標①

項目	具体的内容
重点目標	国家試験合格率の向上
取組の状況と成果	コロナ禍の感染防止を配慮した対応を行ってきたが、3年目となると様々なことが明確になってきた。それゆえ、コロナ禍以前の対応に近づけることができたもの、できなかったものに向け、学校教育を効果的に進める手立てが見えてきた。勿論、感染状況によりWeb授業に切り替えなければならないタイミングも何度か生じたが、校内でのクラスターを阻止できたことは大きかった。また、学習意欲の向上を図ることや学習の進捗状況を以前に近いレベルまで戻す

	ことができ、国家試験合格率も徐々に改善してきた。今後も、これまでのようなきめ細かな対応を継続しながら、国試対策を行い合格率の向上を目指す。
課題	3学科の合格率は昨年度と比べ3.2%低下の87.3%ほどであった。合格率を上げるための、なお一層の努力が必要である
今後の取組	どの学科も最終学年における国試対策を意識的に早い段階から実施するとともに、低学年から基礎力強化をはかる。
4段階評価	3

重点目標②

項目	具体的内容
重点目標	学生募集を中心とした広報活動
取組の状況と成果	中期計画で数値目標を設定し、目標達成を目指した対応策を講じていく努力をしてきた。コロナ禍でもオープンキャンパスを実施できるように、分散化や小規模化の対応をはかってきた。その成果として、最終的には入学者数の定員充足率が例年72%から今年度は85%にまで高めることができた。 また、第1期中期計画の該当年の目標に到達し、諸物価高騰の影響を加味した第2期中期計画の初年度目標としても及第点に届く実績となっている。
課題	コロナ禍の影響が薄れてきた事を配慮した計画が必要になる
今後の取組	18歳人口が毎年のように減少していく中でも、医療職希望者数がそれほど減少していないという傾向は望ましい状況と判断したい。しかし、同業他校の組織改変が一次的な増加要因となっている可能性もあるため、本校でも入学生獲得とともに、在学生の満足度を高める教育活動を継続的に実施していく必要が考えられる。
4段階評価	4

重点目標③

項目	具体的内容
重点目標	学生対応とサポート強化
取組の状況と成果	コロナ禍が継続する中でも規則正しく健康的な学生生活を過せるように、学生との連絡を密にしてきた。講義はオンライン授業と対面授業のハイブリッドになったことも少なくなかったが、学外実習は中止となることが多くなっていた。学生にとっては日々の生活に疎外感を

	<p>覚えたり、通常時であれば行っていたクラスメートとの交流が制限され、学習意欲の低下を導くことが懸念された。そのため、心身の不調をきたす学生がある割合で出てしまったことや休学・退学を選択せざるを得ない学生が増加した。その結果、退学率が3%以内という目標値を大きく逸脱してしまったと反省している。</p>
課題	<p>全体として学習状況に関しては満足すべきものでなかったこともあり、学生の学習環境の整備を急ぐ必要があると感じられた。特に、夏季の暑い時期における実習室の冷房の使用が全体として満足できるものではなかった。</p>
今後の取組	<p>学生の学習環境の整備を行うことが年度をまたぐ決断となったが、各実習室の冷房対策を実施できた。新年度ではより快適に学内実習を進めることができると期待される。</p>
4段階評価	3

重点目標④

項目	具体的な内容
重点目標	委員会および各種会議の活動状況
取組の状況と成果	<p>コロナ禍の状況に応じて感染委員会や学科長会議は定期的開催するだけでなく、臨時的開催も必要であった。また、学校運営に関連する事柄を速やかに決定し、実施するあるいは理事長報告による最終判断を仰ぐ必要性が度々生じた。なお、本校の重点目標である学生募集に関しては外部専門家の指導に基づき、広報企画委員会の定期的開催や、オープンキャンパスや学校説明会などの広報活動が推進できた。</p>
課題	<p>コロナ禍の拡大と縮小が繰り返される状況下で学校運営の舵取りが求められたため、教育や学生活動に関する全ての委員会開催の難しさを痛感させられた。また、開催できなかった会議や委員会もいくつか出てしまったが、学生委員会やビジョン会議は当初の目標を達成できる働きができたと考えられる。</p>
今後の取組	<p>これまでの経験を生かし、新たに中期目標を定め、会議や委員会開催を臨時的に増やし、タイムリーな対応ができるような取り組みが必要不可欠と考えられた。</p>
4段階評価	3

重点目標⑤

項目	具体的な内容
重点目標	デジタルの活用推進

取組の状況と成果	前年度に続きデジタル化の問題は解決できない面もあるが、比較的スムーズにWEB授業が行えるようになってきた。
課題	WEB授業における教育効果を高める方策が必要であると思われた。
今後の取組	デジタル教育ソースの開発や図書館電子化推進などICT教育を進めて行く必要性を感じた。また、教員レベルでメリットやデメリットを明らかにして行く必要がある。その上で、メリット部分をフル活用する方策を考えていくため、各学科でICT教育のあり方を検討して行く予定である。
4段階評価	3

重点目標⑥

項目	具体的内容
重点目標	教職員研修の実施
取組の状況と成果	学会、研究会、あるいは、研修会などがWEB会議を継続している状況に大きな変化はなかったが、教職員個々人がモチベーションを高める活動を推奨してきた。大学院進学、研究員としての研究活動、各種研修や研究会、能力・技能向上のための臨床研修に参加する教職員も出ている。そのため研修規定を作成した。
課題	学会、研究会、研修会などに参加を促す制度がない。
今後の取組	教職員研修制度を基礎にした規定から、研究会、学会、研修会などに参加する推奨制度を構築して行きたい。
4段階評価	2

大項目	教育理念	中項目	理念、目的、育成人材			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	建学の精神（教育理念）、教育目標、教育方針、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アセスメントポリシーを定め、それらによって本校の理念・目的・育成人材像を明確にする。
現状	建学の精神（教育理念）、教育目標、教育方針はこれまで定めてあったが、新たにアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アセスメントポリシーを定め、本校の理念・目的・育成人材像を具体的に示しながら様々な教育活動を充実させるため、令和2年度に新たな中期ビジョンを作成し本年度は3年目の活動を推進してきた。本校の教育・目的・人材育成の基本方針や新たな強化策に関する教育活動は、学校案内（パンフレット）やホームページに掲載している。
課題	理念・目的・人材育成に関しては全学的なものは定められているが、本校3学科のそれらは必ずしも明確には定めていない。
解決 改善 方向	理念・目的・人材育成に関して学科ごと特性を、早急に定めて行く計画である。

大項目	教育理念	中項目	理念、目的、育成人材			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	学校の職業教育の特色を明確にしているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	本校の3つの教育目標を推進するため、理学療法学科、作業療法学科、及び看護学科では各学科の特色を学校案内やホームページなどで公開する。
現状	理学療法学科では「豊かな人間性を携え、自ら進んで成長する力を持ち、地域医療に貢献できる理学療法士を育成する」を、作業療法学科では「作業療法を地域住民の健康増進、保健・医療・福祉・教育・就労支援に寄与するために、関連団体と連携して、協力して活動できる質の高い作業療法士を育成する」を日頃の教育で進めている。看護学科では「生命の尊厳と人間の権利を尊重した豊かな人間性を培うとともに、人間を理解し、その人がその人らしく生きられるように支援できる専門職を育成する。また、地域社会に貢献できる人材を育成する。」を考慮した教育を進めている。
課題	特になし。
解決 改善 方向	特になし。

大項目	教育理念	中項目	理念、目的、育成人材			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	理念、目的、人材育成などが高校生やその保護者に周知されているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	道北・道東で活躍できる地域医療従事者の人材育成を推進するため、本校の理学療法学科、作業療法学科、看護学科の3学科の教育方針や教育内容を対象者に周知する。
現状	ホームページ、オープンキャンパス、学校説明会などで、本校の理念、目的、人材育成の内容を明らかにしながら、高校生や保護者に説明してきた。そのため、これらのことが次第に周知される現状になってきたと考えられる。
課題	地域における医療職の需要が増大しつつある状況を鑑みると、特に、理学療法士および作業療法士を目指す高校生には、本校の理念、教育目的、人材育成に関する説明の機会をもっと増やすことが望まれている。
解決 改善 方向	高齢社会におけるリハビリテーション職の重要性や将来の可能性を説明しながら、本校の教育理念、教育の目的、さらには、人材育成についても合わせて説明していく。このような説明がより具体的に伝わるのが、最近、明らかになった。そこで、このような視点からあらゆる機会を活用して高校生や保護者に丁寧な説明を実施して行く必要がある。また、未来の専門家をを目指す小中学生に対しても、本校での体験型授業や小中校への出前講座でも紹介していく予定である。

大項目	教育理念	中項目	理念、目的、育成人材			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	理念・目的・人材育成・特色・将来構想などを在学生、保護者、卒業生、地域住民、関係業者等に周知されているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	本校の理念・目的・人材育成・特色・将来構想については、本校のあらゆる活動や広報メディアを介して周知をはかる。
現状	これまで、オープンキャンパス・進学相談会・ホームページ・SNSなどを活用して、理念・目的・人材育成・特色・将来構想・最近の実績などを丁寧に説明してきた。
課題	コロナ禍が続いているため、前年度同様、対面型の対応が十分でなかった。そのため、高校生、本校学生、保護者、地域住民、その他関係各位への周知も必ずしも十分でなかった。
解決 改善 方向	コロナ禍で有効な対応として、ホームページ、SNS、マチコミなどの活用をさらに拡充して行くと共に、前年末に導入したメルマガの内容充実をはかっていきたい。

大項目	学校運営	中項目	運営方針			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	目的に沿った運営方針が策定されているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	人間性を高める教育や充実した専門教育を通じて地域医療に貢献できる医療人育成を目指す。
現状	コロナ禍での顕著な国家試験合格率低下から回復の兆しが見えてきており、以前の良好な合格率に近づいている。これは、一昨年度から強化してきた補講や小人数ゼミ形式の学びが定着し、理解不足の改善と学習意欲を高める対応を講じてきたためと考えられる。
課題	コロナ禍が3年間にも及んだため、学科によっては退学率は高どまりしている状態が続いている。
解決 改善 方向	修学支援の効果が出てくると国試合格率の上昇や退学率の改善がなされる傾向があるため、学生支援の取り組みとして、1) 3学科の学生間交流イベントの実施、2) 心理面での問題も含めた悩み相談室の開設、3) 国試対策の強化、4) 教職員に対する学生対応研修会の実施を主な対策としていく。

大項目	学校運営	中項目	事業計画			
小項目	評価項目	適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切	
	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	過去の運営方針を分析評価し、将来3～4年先の予測シミュレーションを行いながら、次年度の年度計画を策定する。
現状	昨年度から始めた運営方針（中期計画）として、各種の委員会や会議の所管事項を確認しながら学校活動を推進させてきた。そのため、学内での情報共有が進み、事務局機能の効率化が進んだ。さらに、国試の結果も全体的に向上しており、学生支援も順調になってきている。
課題	事務課の機能が効率的になってきたことは望ましいが、職員個人による職務の偏りがやや顕著になっている。
解決 改善 方向	事務員による偏りを是正する対応を進めて行き、学生支援に影響が出ないような対応を速やかにとって行きたい。

大項目	学校運営	中項目	運営組織			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	運営組織や意思決定機能は規則等において明確化がなされているか。さらには、有効に機能しているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	学校の寄附行為および学則等に「教職員が関わる運営組織や職務内容」を明確に規定し、学校活動における機能強化を図る。
現状	寄附行為やその他の規定を鑑み、中期計画に定めた委員会や会議を組織し、必要な案件の議論を行ってきた。教育活動推進に必要な事項は例年通りの議論を経て決定し、迅速に処理している。また、決定事項や連絡事項については、全教職員の間で情報共有ができています。
課題	コロナ禍の影響が続いているため、教育活動の一部は停止したままであるため、その委員会や会議は開催されていないこともある。今後、状況の変化に応じて新たな対応を進める準備が必要となっている。
解決 改善 方向	学校全体に関わる事項の中にも急な案件などがでて来る可能性があるため、稟議書による持ち回り会議、臨時会議、あるいは、臨時の委員会などで対応して行く予定である。また、各部署での朝礼会で日常的に教職員間での情報共有や連携をはかる対応でカバーして行きたい。

大項目	学校運営	中項目	意思決定システム			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	教務関連事項に関しては学科長会議を、財務においては予算委員会をそれぞれ中心とした対応で意思決定し、理事長・校長・本部長の決裁で確定していく。
現状	教務については、現行カリキュラムや学則に基づき、上記事項を実施している。財務においては、事務担当者が決定後の手続処理をおこない、理事長・本部長が管理している。寄附行為における改正については理事会・評議会の議を経て最終決定している。
課題	教務については、コロナ禍が続く中において、学外実習等で急な変更が発生する場合があります。教職員間の連携と調整を密にする必要がある。
解決 改善 方向	教務や財務における変更事項は学校運営に影響する場合は考えられるため、予め予測される項目は年次計画に加えておく。また、重大な項目の策定や変更に関しては、教員会議などで全ての教職員に事前の周知徹底を図っていく。

大項目	学校運営	中項目	情報システム			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	学校運営に関わる寄附行為や法令等を遵守し、道庁学事課などから通達事項は教職員全員で共有する。その上で、健全な学校運営を維持するためのコンプライアンスやアカウンタビリティを心がける。
現状	教職員等の規則違反や事故など報告すべき事例は発生してない。また、各種ハラスメントや重大な懲罰に至るケースもほとんど発生していない。ただ、学生指導における対応件数はやや増加傾向にある。
課題	今後も未然に犯罪や事故等の防止を推進し、重大な状況に陥らないように学生を指導して行くことが望まれる。
解決 改善 方向	学校内で 学生指導のための啓発セミナーを開催していく予定である。また、あらゆる観点からの学生の修学支援をはかるため「なんでも相談室（仮称）」を開設し、日頃から学生の問題が深刻にならない段階で解決を図りたい。そのため、日頃から学生の出席率を確認しながら、必要に応じた面談を進めていきたい。

大項目	学校運営	中項目	情報システム			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	教育活動を積極的に公開することで、様々な意見を本校の教育改善に活かしていく。
現状	これまで本校の教育内容や教育環境は、オープンキャンパス、職業体験、あるいは、学校祭などで、中高生や保護者に対して広く公開してきたが、コロナ禍が続く中ではホームページ、SNS、マチコミ、メルマガ等で授業の様子や学校活動などをできるだけ紹介している。
課題	昨年度から本校の学習やイベント情報はホームページなどで情報公開をしてくれているが、必ずしも情報の発信回数やタイミングが十分ではないとの指摘を受けている。
解決 改善 方向	公開すべき情報をわかりやすい資料としてまとめて公開していくのみならず、公開する回数を増やすことで、学生や保護者、さらには、一般の方々の要望に応える対応を進めて行く計画である。

大項目	教育活動	中項目	目標設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	本校の教育理念を基本とした3つの中核目標に基づき、毎年、具体的な年度計画を定め、教育活動を推進する。
現状	教育活動を推進する上で、学校運営における諸規則を厳守する事や、コンプライアンスに関わる重要事項は全教職員に通達している。また、指定規則に沿った本校教育規定を設置した。それらに従い教育課程や教育指導方法に基づき、教育活動や学生支援を真摯に行っている。
課題	コロナ禍の影響で対面授業が中止になったり、W E B 授業に変更する、あるいは同時に行う対応に若干問題が生じることがあった。
解決 改善 方向	今後は、対面授業からW E B 授業にスムーズに移行できるように常に準備しておらず、W E B 授業を補完する補習・個別対応などを必要に応じて実施していく計画である。

大項目	教育活動	中項目	目標設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学則に定められた教育年限で授業展開ができるように、シラバスや授業日程を作成すると共に、十分な学習時間が確保されることを基本方針とする。
現状	教育課程の編成や実施方針に基づき、毎年シラバスを作成している。また、学生アンケートや学科教員間での話し合いから、学習内容、到達レベル、時間配分などでの微調整を行ってきた。
課題	関連した専門科目間で内容の整合性や相補性の確認は学科内で行っているため、授業計画や教育目標には問題ない。ただ、授業日程には変更が多いため、随時掲示している状況である。
解決 改善 方向	授業日程の学生への連絡は確定した時点で速やかに掲示しているが、この連絡については学生の立場から創意工夫を重ねて行きたい。

大項目	教育活動	中項目	目標の設定、教育方法、評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
	各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	指導要領に基づき、体系的なカリキュラム編成を基本として作成する。
現状	理学療法学科および作業療法学科カリキュラムは養成施設指定規則に基づき、作成・運用してきた。看護学科のカリキュラムに関しても、保健師助産師看護師指定規則に沿って運用しており、問題はない。
課題	特になし。
解決 改善 方向	特になし。

大項目	教育活動	中項目	カリキュラム・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	医療従事者育成のためのキャリア教育や職業実践教育による動機付けや啓発教育的視点を盛り込んだカリキュラム構成を基本方針とする。
現状	コロナ禍が続いている環境下では、当初のカリキュラム体系や実践的職業教育に変更を加える必要性が生じてきた。北海道学事課の指導の元、対面授業とWEB授業の併用や学外実習へ対応も臨機応変に行ってきており、教育効果を高める取り組みを進めている。
課題	WEB授業では、学習の動機付けや実践的な職業教育実施における教育効果をさらに高めて行くことを考えていきたい。
解決 改善 方向	WEB授業では、教員と学生の双方向の相互作用を高める為の創意工夫を実施してきた。また、職業実践専門課程への申請を前提に、企業等の指導者と教員との協議を進め、専門教育としての内容をブラッシュアップして行く計画である。

大項目	教育活動	中項目	目標の設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	カリキュラムの大枠は、指定規則や実習指導者会議での意見を反映させて構築していく。
現状	職業実践教育の改善に必要なことの一つは臨床現場からのフィードバックであり、本校では、毎年、各施設における実習指導者会議（看護学科）やバイザー会議（理学・作業療法学科）等で意見交換を行い、教育に反映している。
課題	学外実習の事前の準備をしっかりと行なっても、途中で実習を継続できなくなる学生が出てくる場合があるので、カリキュラムの編成を考える必要がある。
解決 改善 方向	コロナ禍で学外実習が中止になることが多くあったため、代替実習の内容を充実させて行く見直しを図りたい。また、職業実践専門課程への申請を行い、企業等との連携を今後さらに深めて行く計画である。

大項目	教育活動	中項目	目標の設定・教育方法・評価等			
	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
小項目	関連分野における実践的な職業教育（実技・実習等）が体系的に位置付けられているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	指定規則に基づき、職業教育を体系化したカリキュラムとして作成する。
現状	作成したカリキュラムには概ね問題がないが、実習に関わる知識や実技に学生の個人差が生じることが多い。そのため、事前学習を丁寧に行うだけでなく、学生の習熟度に応じた実習先の割り振りなど（グループ編成）を行っている。
課題	学外実習では、学生個人の知識、実技習得状況、コミュニケーション能力、性格などが実習の成否に影響することがあり、時には実習継続が困難になる学生が現れる。
解決 改善 方向	理学・作業療法学科の学外実習の習熟度を高めるため、希望する学生には課外時間で実技練習の機会を提供している。また、興味や関心が高い学生を中心に、他学年や他科学学生と共に学べる連携教育を正課活動や課外活動として推進させていきたい。

大項目	教育活動	中項目	目標の設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
	授業評価の実施・評価体制はあるか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	授業評価やアンケートを実施し、それらの意見や要望を本校の教育活動や学校運営に反映させる。
現状	教育活動や学校運営に関する学生アンケートおよび保護者アンケート調査を毎年実施しており、学生による授業評価実施に関する申し合わせに基づき、学生による授業評価を行っている。
課題	非常勤講師（外部講師）に対する授業評価は徐々に実施してきたが、まだ全教員に対して行なってはいない。また、授業評価の結果は学生にはフィードバックしているが、公表はしていない。
解決 改善 方向	「学生による授業評価実施に関する申し合わせ」を修正し、外部講師を含めたすべての教員に対して実施していくことを目標にして行きたい。また、同僚評価や外部評価等も検討して行くとともに全員の評価結果をグラフ等にまとめ、今後も公表して行きたい。

大項目	教育活動	中項目	目標の設定・教育方法・評価等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	学外実習（臨地・臨床実習）における学生評価には、実習先の病院・施設担当者と連携して実施する。
現状	学生実習の評価については、指導者が実習後公正かつ客観的に行っている。看護学科では実習中にも常に教員から学生に教育指導がなされているが、理学・作業療法学科では、教員の関与はより間接的になっている。つまり、実習指導者が学生の指導を行っている。いずれのケースにおいても、教員は学生や実習指導者と密な連絡をとって成績評価を行っている。
課題	教員と実習指導者間で事前に学生情報を共有し、想定される問題解決を心がけているが、積極的なコミュニケーションが苦手である学生や内向的な学生では、時に実習中の指導者や患者さんとのコミュニケーションがスムーズに進まないことがあるため、成績評価ができないことがある。
解決 改善 方向	WEB会議システムや直接の面談等により学生支援をより強化して実習を行っている。やむを得ない場合や予期せぬ事態では、実習中止や再履修について適宜対応し、成績評価を公平に実施する計画である。

大項目	教育活動	中項目	成績評価・単位認定			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	学則に記載された成績評価および単位認定基準に従い、各科目ごとの詳細な評価基準等はシラバスに明記する。
現状	学科会議で、各科目の成績判定・単位認定は学年ごとに実施してきた。各科目の最終判定は、秀、優・良・可・不可の区分で行っている。
課題	成績評価基準が明確になっているから、科目ごとの平均得点に大きな差異があることが明らかである。ただ、それ以上に、再試験の対象者となる学生がコロナ禍で増えている大きな問題がある。
解決 改善 方向	再試験該当者が増えている原因の一つに、学生の成績に学力差が広がっていることがある。真面目に学ぶ学生が多いが、日々の学びに真剣になれない学生が存在することも確かである。学生に対して学ぶ意欲を高める創意工夫を今後も重ねて行きたい。

大項目	教育活動	中項目	資格・免許取得の指導体制			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	資格取得のための指導体制やカリキュラムでの体系的な位置づけはあるか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	資格取得の指導体制強化やカリキュラム内でその体系化をはかるため、学生の学習意欲の持続や国家試験合格率向上を毎年の課題とする。
現状	各学科の全教員が協力する指導体制をとっており、体系化されたカリキュラム内で連携をはかってきた。グループ別による国試対策グループ学習では、グループダイナミクスの働きを最大に引き上げる支援を行ってきた。コロナ禍で低下した理学・作業学科の合格率は徐々に以前のレベルまで回復してきた。看護学科の合格率は90%代を維持している。
課題	毎年、一部の卒業生が国家試験の不合格者となってしまう。
解決 改善 方向	国家試験合格率の向上と不合格者の再挑戦に向けたサポート体制を強化をしてきたが、目標達成には至っていない。そこで、もう少し低学年から各学年の学びを履修する取り組みが基礎学力の強化につながると考えており、そのための戦略を体系的な学びにつなげる取り組みを模索して行きたい。

大項目	教育活動	中項目	教員・教員活動			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	人材育成目標に向けた授業を行う要件を備えた教員を確保しているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	医療職者としての人材育成を目指した授業を行うため、指定規則で明記されている要件を備えた専任教員23名以上の確保を維持する。
現状	教育に意欲的で熱心な教員を確保しており、医療職者を育成する教育がしっかりと実施できている。
課題	非常勤講師の平均年齢が年々高くなる傾向がある。
解決 改善 方向	学生による授業評価を実施し、授業改善に向けたフィードバックを実施して行きたいと考えている。また、教職員に対する学内研修会を実施し、教員資質の向上や人材育成の取り組みを進めていく計画である。

大項目	教育活動	中項目	教員・教員組織			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	望ましい教職員を確保するため関連企業提携先の確保などのマネージメントを行っているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	関連企業との連携において情熱と適切な経験をもった優れた教員を確保し、学生の学習意欲・学力の向上を目指す。
現状	教育の質を担保するため、専任教員や非常勤教員の確保に関して関連分野の企業等との情報交換を常に行っている。また、専任教員には学内外の研修会への参加を促し、教員としてのモチベーションを高める努力を推奨している。
課題	コロナ禍での教員研修はWEB研修会が中心となり、対面講習会や学校内外での研修会開催がそれほどできていない。
解決 改善 方向	教員研修や自己啓発活動を推奨するため、学内研修会を開催したり、関連企業との連携による教員の自己研修を奨励していく制度を構築していく計画である。

大項目	教育活動	中項目	教員・教員組織			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための教員研修や指導力育成をはかる取り組みがおこなわれているか。	4	3	②	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	各職技能団体や関連企業等の研修会、学会、研究会などへ参加し、絶えず教員としての資質向上をはかる。
現状	コロナ禍のため学会や研修会がWEB開催されることが多く、それらへの参加や発表などを学科全体で、あるいは、個人的に進めている教員は少ない。大学研究者としての研鑽を積む、あるいは、学外との共同研究を進め学術的な活動をしている教員も存在する。
課題	各学科の教員全体が参加する研修会や研究会が少ないことは一つの課題となっている。
解決 改善 方向	教員が各種の研究会、研修会、あるいは、学会などへの参加を支援して行く必要がある。次年度は職業実践のための教員研修を順番に実施する目的のため、研修実践を試験的な規模で開始する予定である。

大項目	学習成果	中項目	就職率			
小項目	評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
	卒業生の就職率の向上が図られているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業生の就職希望者に対して毎年100%の就職率をめざす。
現状	今年度の卒業生の国試合格率は88.9%であり、就職状況は87.3%であった。昨年度と比較するとやや低下したが、コロナ禍のはじめ2年間の落ち込みから回復してきた。
課題	国家試験不合格者の場合、就職先確保や次年度国家試験対策に向けた学習支援は必ずしも十分ではない。
解決 改善 方向	国家試験合格者の就職率は毎年100%であるため、卒業予定者のみならず前年度国家試験不合格者への対応を強化して行く対策を新たに実施して行く計画である。

大項目	学習成果	中項目	資格、免許取得率			
小項目	評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
	資格取得率の向上が図られているか。		4	③	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業予定者全員の国家試験合格を目指すため、国家試験対策を早期から丁寧に行う。
現状	今年度の国家試験合格率は前年度とほぼ同じ89%であり、全国平均合格率と同程度であった。国家資格の合格率が保たれているのは、昨年度から習熟度別小グループ編成による自主的な受験勉強をしてきた学生の努力によるもや、各グループに対する教員の戦略的な学習指導によるものと考えられている。
課題	成績下位グループや過年度卒業生の合格率向上が課題といえる。
解決 改善 方向	今年度は昨年同様にコロナ禍での国家試験合格率がほぼ同程度であったことから、この対応を在校生のみならず、過年度卒業生に対して活用していく方策をとる事が望ましいと考えられる。そこで、特に過年度卒業生の指導に年間を通じた対応を対面指導やWEB指導などで対応する計画を作成し実施する予定である。

大項目	学習成果	中項目	卒業生の社会的評価			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	卒業生や在校生の社会的な活躍を把握し、評価しているか。	4	3	②	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	同窓会や就職先の病院との連携により、各学科が卒業生の社会的活躍の状況把握に努める。在校生に関しても各担任が状況を把握する。
現状	卒業生は道北道東の医療機関に就職するケースが多く、社会的活動状況の把握が比較的容易である。コロナ禍が続いている状況では、同窓会開催などが中止されることが多く、状況把握は必ずしも順調ではない。在校生に関しては、成績優秀者や学内外の活動が顕著であった学生を把握し、規定に従って表彰を行なっている。
課題	卒業後の経過年数が増えていくに従い、状況把握が次第に難しくなる卒業生が増えている。
解決 改善 方向	卒業生の社会的活躍に関しては、同窓会、学校教員主催の研究会・研修会、さらには在校生との交流会を通じて情報把握をして行く計画であるが、コロナ禍の鎮静化後には同窓会との連携を密にしていきたい。

大項目	学習成果	中項目	卒業生の社会的評価			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	卒業生支援による学生のキャリア形成や学校教育活動の改善を進めているか。		4	3	②	1

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業生と教員が主体的に研修会等を実施し、在校生のキャリア形成や教育活動を推進していく。
現状	コロナ禍のため学生全員が参加できる研修会は開催できてはいない。学外実習では、本校卒業生が実習指導者となる場合が多く、教員や学生を含めた綿密な個別対応がうまくなされている。
課題	どの学科においてもキャリア形成のための学内・外研修会はコロナ禍では減少している
解決 改善 方向	学校を訪問する卒業生には、自らの経験を伝えるために授業参加してもらうケースが不定期になされる。今後は、カリキュラムで展開される様々な授業に卒業生の招聘をはかり、キャリア形成的教育の実施に向けて計画を立案し、実行していきたい。

大項目	学習成果	中項目	中途退学への対応			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	退学率の低減が図られているか。	4	3	②	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	学生の可能性を伸ばすあらゆる支援を行い、退学率の低減をはかる。
現状	今年度の退学率は3.66%であり、この2～3年間の推移を見ても大幅な改善は見られていない。ただし、進路変更などを理由に退学する学生は毎年一定の割合で存在している。
課題	学力不足のため学習意欲を持ってないとか、精神的問題などの要因があるなど、学生個人の持つ問題が複雑に絡み、休学や退学に向かう傾向が存在する。
解決 改善 方向	学力不足や学習意欲が原因となる場合、基礎学力やコミュニケーション能力の向上強化をはかる。メンタル面の問題がある場合専門家を交えたサポート体制を強化する。また、規則正しい生活を指導する相談室の開設を進める。これらを包含した総合的な修学支援体制を整備する計画を進めていきたい。

大項目	学生支援	中項目	学生相談			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	学生相談に対する体制は整備されているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	学生の就学上の問題解決をはかる体制を整備し、学生生活を支援する。
現状	各学年の担任を中心に、学生に対する修学上の問題解決を図る相談を進めてきた。必要に応じて学生や保護者を交えた三者面談を実施している。その他、学科長、副校長、校長も面談に加わることで問題解決をはかってきた。
課題	学年担任や同じ学科の教員に相談したくないケースも想定されるため、各学科の垣根を超えた「なんでも相談室」の設置を進めたい。
解決 改善 方向	目安箱（投書箱）の設置や学生なんでも相談室の開設を進め、就学上のあらゆる問題解決をはかる組織作りを始める。また、必要に応じて心理カウンセラーなどの専門家からのカウンセリング対応も計画的に進めていきたい。

大項目	学生支援	中項目	学生相談			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	学生の経済面に対する支援体制は整備されているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	日本学生支援機構による奨学金制度や本校独自の学生支援制度の説明を丁寧に行い、奨学金を必要とする学生・保護者に適切な情報提供を行う。
現状	経済的支援を必要とする学生・保護者からの相談を受けながら各種奨学金制度の説明を行ってきた。また、本校独自の報奨制度を学習意欲向上の動機付けになるように紹介してきた。なお、奨学金等の担当職員による対応は丁寧になされてきた。
課題	在校生に対する説明は丁寧になされてきたが、退学や休学を予定する学生への説明もより丁寧に行うべきと考えられる。
解決 改善 方向	奨学金支援制度の説明資料を早期に作成しホームページや動画での説明を行ってきたが、返還が必要となる卒業予定者のみならず、休学や退学の予定者にも具体的な返還プランの提案や返還サポート制度の紹介をしていきたい。

大項目	学生支援	中項目	学生相談			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	定期健康診断、校内救急対応、感染症予防対策、心身の健康把握などを行いながら、学校の衛生環境の保持や学生等の健康管理につとめる。
現状	法令に基づく定期検診やインフルエンザや新型コロナウイルス予防接種、さらには、病院実習参加者の健康診断などを含め、健康管理の体制強化を実施してきた。また、学生や教職員は、日常の健康管理チェックシート記入を励行している。
課題	メンタルな問題への対応は必ずしも十分とは考えられない。
解決 改善 方向	日頃より心身の健康維持のため、担任を中心とした学生本人との面談、保護者を交えた三者面談の実施、あるいは、外部カウンセラーと気軽に相談できる対応を取れるようなシステム作りを推進していきたい。

大項目	学生支援	中項目	学生相談			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	新型コロナウイルス感染対策を担う組織体制はあるか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	新型コロナウイルス感染拡大を抑制するため、本校独自の基準や行動指針を策定し、感染防止対策を進めていく。
現状	感染対策委員会を適宜開催し、国、道、市の指針を参考に本校独自基準の作成と周知、さらに、行動指針による円滑な授業の推進をアドバイスしてきた。また、感染防止の啓発教育とその教育に基づく消毒や対策を進め、早期にワクチン接種やPCR検査など感染者や濃厚接触者への対応などの情報提供やアドバイスを行っている。
課題	コロナ禍での感染拡大を防ぐ手立ては講じてきたが、学生の学習意欲維持を確保できたかどうかは疑問である。
解決 改善 方向	これまでの組織はうまく機能していると考えられるが、今後もコロナ禍の備えを怠らず、学校の教育活動を進めていく。

大項目	学生支援	中項目	ハラスメント対策			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	ハラスメントの防止を図り、教育環境の充実をはかる支援はなされているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	学生が有意義な学生生活を過ごすことができるよう、ハラスメント防止規定等に従った運用により教育環境の充実をはかる。
現状	学生アンケートや保護者アンケート、さらには、各教員によるアンケートや面談を通じて、本校の学習環境を改善してきた。ハラスメント防止規定（案）や同防止委員会規定（案）に基づきより望ましい学習環境の改善を進めている。
課題	ハラスメント防止規定（案）や同防止委員会規定（案）をよりブラッシュアップし、細やかな対応を推進して行く必要がある。
解決 改善 方向	ハラスメント防止規定やその運用めぐる制度を構築すると共に、研修会などを開催し、ハラスメント根絶を目指して行く対策を推進する計画である。

大項目	学生支援	中項目	保護者との連携			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	保護者と適切に連携しているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	学生、保護者、教員間で情報共有を行いながら学生生活の充実を目指す。
現状	入学時に保護者説明会を開催し、毎年、学生・保護者・教員による三者面談を実施しており、教育活動や個々人の修学状況などについて話がなされている。学校情報全般に関しては、ホームページやSNSなどを利用して保護者に提供してきた。特に、学業不振者や就学上の問題を抱えた学生には、早めの対応を心がけている。
課題	保護者アンケートや学生アンケートから、次第に本校の様子が保護者に理解されてきたという傾向が認められたため、保護者との連携は改善したと考えられる。
解決 改善 方向	今後も情報提供や面談などを通じて保護者との連携をさらに密にしていきたいと考えている。

大項目	学生支援	中項目	卒業生・社会人			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	卒業生への支援体制はあるか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業生と在校生・教職員との交流を高め合い、各医療分野で協働しながら卒業生の地域貢献を支援する。
現状	卒業生が気軽に訪問しやすい雰囲気作りに心がけてきた。国家試験不合格者に対しては模試や国家試験対策に加え、就職および再就職支援を在校生と同様に行ってきた。就職後の転職や大学院進学などのケースにも個別対応し、希望する場を提供している。同窓会組織を通じた研修会や同窓会などの開催の度に母校として支援を行っており、学術活動や社会貢献事業にも様々な協力を行っている。
課題	個別対応は常時行っているが、卒業生と在校生の交流会などの開催はコロナ禍で低調になっている。
解決 改善 方向	学術活動、研修会、地域貢献、同窓会活動などに参画している卒業生にはそれらの活動に個別的な支援を充実して行く予定である。コロナ禍の状況が改善する中で、その時々 の学校情報をホームページや同窓会組織を通じて発信してだけでなく、学校イベントなどへの招待や在校生との交流会を呼びかけていきたい。卒業生アンケート調査実施 すべく、計画を進めている。

大項目	学生支援	中項目	卒業生・社会人			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	関連分野における業界との連携による再教育プログラムを行っているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	卒業後の再教育や専門教育を推進するため、同窓会、理学作業療法士会、看護協会、関係医療機関などとの連携をはかる。
現状	本校で開催する学習会、研修会、研究会、あるいは、同窓会では、卒業生への連絡を毎回行っており、コロナ禍では研修会をWEB方式で開催している。残念ながら、同窓会の開催は、今年度も実施していない。
課題	研修会への参加者数がなかなか増加しない問題があり、本格的な再教育あるいは専門教育プログラムへの発展を進める機運が育っていない。
解決 改善 方向	同窓会や実習病院スタッフとのバイザー会議には卒業生の参加も少なくなく、指導者研修会に限らず再教育あるいは専門教育プログラムを組織化していく素地がある。この点を切り口として、再教育プログラムを立案、実施していきたい。

大項目	教育環境	中項目	施設・設備等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	施設・設備等は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	リハビリテーションや看護の医療現場を想定した最新設備を導入し、将来の医療現場に近い学習環境で学生の学びを支援する。
現状	現在までに、ほぼ必要な設備や備品類は導入されていて、頻繁に使う機器の修理や保守を定期的に行っている。不足がちな消耗品は年間予定に合わせて補充している。経年劣化が進んでいる機器類は計画的に修理をしたり、新規購入を進めている。
課題	教育のICTが進む中で新たなシステムの導入が必要になると考えられる。
解決 改善 方向	図書の電子化や実習設備の購入などは年次計画を立てながら、進めていく計画である。

大項目	教育環境	中項目	学外実習・インターンシップ等			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場などについて十分な教育体制を整備しているか。		4	3	②	1

区分	内容
考え方 方針 目標	実践的で専門性のある体験実習に主眼を置いて、学内外の実習を鋭意進める。インターンシップや海外研修はカリキュラム内に該当科目として用意していないが、新たな時代に合う柔軟な対応をはかっていく。
現状	学内外の実習は系統的にカリキュラムに配置されているが、コロナ禍ではインターンシップや海外研修の実施は難しく、必要に応じて学内代替実習に切り替えてきた。また、実習先における実習指導者と教員が綿密な打ち合わせを行い、実習再開の環境作りを行なってきた。
課題	インターンシップや海外研修は年間の授業計画に組み込む時間的ゆとりがないため、正課の授業として展開するのは難しい。
解決 改善 方向	インターンシップを関連企業等と共同で構築していくことは、職業実践専門課程への申請をするうえで計画する必要がある。また、海外研修は実績のある他校からのノウハウを取り入れたいと考えている。また、海外留学生の受け入れは全くの白紙の状態であるが、海外留学経験を持つ教職員を中心に受け入れから就職に関わる流れを勉強中である。

大項目	教育環境	中項目	防災・安全管理			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	防災体制は整備されているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	震災や火災などの災害から学生及び教職員の生命身体の安全確保に資するため、法令遵守と整備を進め、防災訓練等を定期的に行う。
現状	防災設備は消防法などに定めに従い、必要な整備は整えている。毎年の避難訓練は消防署員の指導のもと、年2回実施している。そのうち1回は、学生や教職員が実際に消火模擬訓練を実施しており、もう1回は事務職員により専門的な観点からの訓練を行いながら、全校的に防災意識を高めてきた。
課題	防災や防火に必要な備品等の数量は必ずしも十分ではない。また、避難訓練についてはマンネリ化の傾向が見受けられる。
解決 改善 方向	防災用具の整備については年次計画に従って進めていく予定である。訓練のマンネリ化を防ぎ防災意識を高める上では、実施困難期な冬季に実施する、あるいは、明確な日時を設定せず、防災期間とした中で実施するなどの工夫を重ねていきたい。

大項目	学生募集	中項目	学生募集活動			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	高等学校等に対する情報提供などの取組を行っているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	道北・道東の医療のあるべき姿を道内の中高生に伝え、本校の特徴や教育理念等を具体的に説明する。
現状	事務課の組織改変により広報担当専門職が2名選出され、道内各高校を定期的に訪問している。その折、現在の在校生の就学状況、国家試験合格実績、就職状況、本校への資料請求やオープンキャンパス参加希望者等の情報を詳細に情報提供している。また、道内各地あるいは高等学校主催の進学説明会等にも積極的に参加し、医療従事者や本校に関する情報提供を行なっている。また、中学生に対する医療職に関する講義や職業体験実習を行っている。
課題	働き方改革が進みつつある現代では医療職を希望する人々が徐々に増加しつつあるが、中高生に対する情報提供や職業体験の場は必ずしも十分ではない。
解決 改善 方向	看護職やリハビリテーション専門職に関する説明機会を増やすため、本校でも中・高校生のインターンシップを学校内で実施し、出前講座による対応を強化していく。さらに、ホームページやSNSなどを活用した医療職校としての教育内容を紹介していく計画である。

大項目	学生募集	中項目	学生募集活動			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	学生募集活動は適正に行われているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	主として旭川市や近郊のみならず道北・道東の高校生に対して学生募集を行う。さらに、全道や全国からの入学生を受け入れる方針を進めていく。
現状	進学相談会や高校訪問などでは、医療職の将来性や本校の特徴を具体的に説明している。さらに、オープンキャンパス、出前講座、本校開催の職業体験などを通じて、医療職への理解と学生募集の活動を進めてきた結果、新入生の入学者数は定員の70%ほどから85%に大幅増加が実現できた。
課題	18歳人口が減少する中、本校理学療法学科や作業療法学科の入学者数が伸び悩んでいる。
解決 改善 方向	DXが進みつつある高齢社会であっても、医療職の重要性が増大している現状を中・高生に伝える活動を進めて行きたい。そのような広報活動を通じて医療職を目指す学生に興味や関心を持ってもらい、入学者数増加につなげたい。

大項目	学生募集	中項目	学生募集活動			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	各学科の資格取得数や就職状況を公開し、高校生や保護者に的確な情報提供を行う。
現状	高校訪問・オープンキャンパス・進学相談会などに於いて、本校ブースの訪問者や相談者などに対して、資格取得者数や就職状況などの情報提供を行っている。また、ホームページや学校案内などで最新情報を提供してきた。
課題	国家試験合格による資格取得率と就職状況は密接に連動しているため、国家試験合格率の向上を目指さなければならない。
解決 改善 方向	コロナ禍が始まり、最初の2年間での資格取得者数の急激な低下が起こった。その後回復基調にあるが、高い資格取得者率となる方策を最優先事項として取り組んでいく目標を掲げている。

大項目	学生募集	中項目	入学選考			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	入学選考は適正に行われているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	理学・作業療法学科及び看護学科の募集要項に従い各学科の入学試験を受けた受験生から、入学試験選考会議の議を経て、厳正かつ公平に合格者を選考する。
現状	本校規定に基づき、入学試験を実施している。合否判定は、各学科ごとに入試選考会議を開催して、合格者を適正に選考してきた。入学試験の面接は、面接評価基準を参考に公平な評価がなされている。また、面接担当者には、受験生の家族や親族者がいないことを確認している。
課題	入学選考は適切に実施できていることから特に課題となることはない。
解決 改善 方向	恣意的な評価が入りやすい受験面接では評価マニュアルを見直す、面接員の構成の偏りをなくす、質問項目にかかる統一性をはかる、などの観点から定期的に面接の適正さを検討していく計画である。

大項目	財務	中項目	監査			
小項目	評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
	財務に関して会計監査が適切に行われているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	会計年度終了後に2ヶ月以内に学校法人会計基準に従って財務書類等を作成する。その後、会計監査を受け、合規適性な運営に資する。
現状	会計年度終了後に2ヶ月以内に学校法人会計基準に従い、財務書類等を作成している。その後、監事による会計監査を受け、合規適性な運営がなされていることを確認し、ホームページ上で公開している。
課題	会計処理が適切になされており、特に問題はない。
解決 改善 方向	税理士による専門的な立場からの会計処理のチェックを行っており、人為的なミスが起これないようなチェック体制を構築してきたが、今後もこの対応を継続して行きたい。

大項目	法令等の遵守	中項目	法令関係・設置基準等の遵守			
小項目	評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。		④	3	2	1

区分	内容
考え方 方針 目標	専修学校設置基準及び各種法令、理学療法士作業療法士、看護師学校養成施設指定規則等に基づき学則を定め、本校を運営する。
現状	上記規則に基づき、施設、編成、教育内容、単位数等を定めており、学校活動を誠実に進めている。
課題	問題となることは特にない。
解決 改善 方向	特にない。

大項目	法令等の遵守	中項目	個人情報の保護			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	個人情報保護のための対策がとられているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	個人情報保護の観点から考えられるあらゆる防止策を講じた上で、学生や教職員の管理体制に万全を期す。
現状	個人情報の管理は、職員室、事務室等の書庫で保管している。PC管理は、サーバーに制限フィルターをかけ、アクセス権やパスワードにより関係者以外は確認出来ない体制をとっている。教職員と学生利用のサーバーは別々に管理している。個人情報に関しては、本人の承諾内容の範囲で適切に業務運用してる。学外実習等で得た個人情報は施錠可能な保管庫で保管し、情報漏洩がないように使用後の廃棄は確実に実施している。成績証明書等の発行は、本人の申請に基づき学科の確認を経て、発行・交付している。
課題	個人情報保護に関する規程を定めていない。
解決 改善 方向	個人情報保護規定を作成し、個人情報保護と管理体制を強化していく計画である。

大項目	法令等の遵守	中項目	学校評価			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	毎年、自己点検・自己評価を行い、学校運営や教育活動の改善に資する。
現状	毎年、本校の教育活動や事業に関して自己点検・自己評価書、学生アンケート、保護者アンケート、事業報告書、会計報告書、学校関係者報告書などの資料を作成し、学校運営や教育活動の改善に活用している。改善すべき項目に優先順位をつけて対策を講じており、その上で、次年度の業務計画を作成する上の参考にしている。
課題	現在、学校関係者による評価を受けているが、看護学科は第三者評価を受けてはいない。
解決 改善 方向	看護学科に関しては道庁からの指導調査は受けているが、今後、第三者評価を受ける体制を整備していく。

大項目	法令等の遵守	中項目	教育情報の公開			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	自己評価結果を公開しているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	自己評価結果などの学校情報はホームページに掲載し、本校教育活動および事業活動の概要を公開する。
現状	毎年、自己点検・自己評価書のみならず、学生アンケート、保護者アンケート、学校関係者評価結果などをホームページ上で公開してきている。
課題	保護者アンケートでは、学校のことがよくわからないとする保護者の意見は30%前後である。
解決 改善 方向	ホームページ上で公開していることをもっと確実に保護者に伝える方法として、郵便による連絡、マチコミやメルマガによる情報配信、SNS、YouTubeなどを充実させていきたいと考えている。

大項目	社会貢献・地域貢献	中項目	社会貢献・地域貢献			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	本校施設や人的資源を活用し、地域住民の健康増進や疾病予防に貢献する。
現状	毎年、医療・福祉関係団体等あるいは地域の団体やサークルから施設利用の申し込みがあり、それらに全てに対応している。また、旭川市や近隣市町村からの要請に応じて出前講座を行なっている。新型コロナ禍の影響下では、各種交流会やサービス提供を自粛せざるを得なかったが、地域住民の健康増進のための除雪体操などを手掛かりに、社会福祉協議会と連携し、地域住民の健康増進やその他の活動に貢献している。
課題	コロナ禍の状況が続くと活動が難しいケースも予想される。
解決 改善 方向	地域の方々にコロナ禍の対応は国、道、市の指導に従って本校独自の対策基準や行動指針を適宜変更して対応していく事の理解を深める努力をする。また、本校では医療機関での実習が予定されているため、社会一般より一段厳しく対応していることを理解してもらえる対応を目指して行きたい。

大項目	社会貢献・地域貢献	中項目	ボランティア活動			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	地域住民の健康増進・疾病予防を目指したボランティア活動に対して学生参加を奨励・支援しながら、地域との連携や協力体制を確立していく。
現状	ボランティア活動（老健施設でのお祭り企画や高齢者の勉強会のサポート）に関しては、教員を通じて学生参加を促してきたが、コロナ禍で自粛があり、不調に終わったことがあった。しかし、新規活動については全学的に掲示しながら、教職員のボランティア活動にも学生参加を促してきている。
課題	コロナ禍ではボランティア活動が中止になっている。
解決 改善 方向	コロナ禍の状況改善と共に地域ボランティアのため、教職員が学生団体などとの話し合いを進めながら、その時々での支援について検討していきたい。また、学生自身による勉強会を立ち上げる動きが出ているため、学校として支援して行きたいと考えている。

大項目	社会貢献・地域貢献	中項目	研究倫理規程			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	ヒトを対象とした臨床研究を進めるための規定等を整備しているか。	④	3	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	理学療法学、作業療法学、看護学の各領域における臨床研究を実施するため、ヒトを対象とする研究倫理規程を作成し、定期的に見直しをする。
現状	ヒトを対象とする研究倫理規程および研究倫理委員会規程を定めており、それらの定期的な見直しを進めている。毎年、これらの規定に従って、申請される研究の妥当性を評価している。昨年は2件あり、それらはともに従来研究の延長であった。
課題	コロナ禍では、研究遂行が難しくなることがあり、新規研究の申請も少なくなる傾向にある。
解決 改善 方向	規定などの整備を進めているが、学生と共に研究を活性化するための取り組みを計画し立案、実施して行きたい。

大項目	社会貢献・地域貢献	中項目	研究推進			
小項目	評価項目	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切	
	ヒトを対象とする臨床研究推進のために研究担当者への支援を行っているか。	4	③	2	1	

区分	内容
考え方 方針 目標	理学療法学、作業療法学、看護学の各領域における臨床研究を実施するため、研究資金、研究スペース、共同研究あるいは、外部資金獲得を進める。
現状	現在、本校で進めるアンケート調査には、設備等を必要としてない。ただ、本校に設置した設備や備品類は利用が可能であり、消耗品等に関しては教育研究費から支出している。
課題	外部資金の獲得実績はまだない。
解決 改善 方向	現在のところ、学校設備や教育研究費の活用で研究がなされているが、今後、国、道、市町村、財団法人、民間会社など外部資金に研究担当者が積極的に応募していけるよう外部資金獲得を支援していきたい。

V 終わりに

2022年度の総決算としての自己点検・自己評価報告書では特質すべきことは、広報活動が著しい成果をもたらし、学生充足率が大きく改善したことであろう。そのため、総合評価点数は昨年度と比べ向上する結果となった。また、教育活動のモチベーションを高める方策が次第に浸透して行ったため、学校活動全体が相加・相乗的に目に見えて改善していったと結論づけられる。

しかし、過去3年間コロナ禍が続いていたため、制限された活動も残ってしまったことも、少なからず存在している。そのため、コロナ禍での創意工夫は、広報活動、教育活動、さらに地域貢献にも波及した結果、学校経営面に対して大きな刺激となっており、評価に値する。広報活動を含めた学校事業活動全般に直接・間接的に関わって頂いた全ての教職員に感謝を申し上げたい。

次に、コロナ禍のはじめ2年間で大きく低下してしまった国家試験の合格率に関しては、昨年と本年の2年間で3学科の平均合格率のV字回復が認められ、良好な成果につながっていると考えられる。この点に関しても、卒業生の頑張りや指導に関わった教員各位には、特に敬意を払いたい。

今後は、低学年からのグループ学習を各授業に盛り込み、より一層の学習意欲向上に役立てて頂きたいものである。一方、努力が成果に直結しない活動も多くあったが、様々な働きかけは授業や学生活動を実りあるものにしてきたことは、自己評価の点数以上に、今後につながる可能性をもたらすことと推測されるため、極めて重要な対応であると考えている。

残念なことは、退学率や休学率がなかなか目標とする3～5%ほどのレベルに改善することができなかった点である。このことは、新年度の大きな課題と考えており、学習に対するモチベーションが高まる教育体制、修学上の問題解決のための新たな対応、学生生活にメリハリがつくようなイベント・スポーツ大会、などを充実させて行きたい活動と捉えている。

学校法人 稲積学園
北都保健福祉専門学校
理事長 稲 積 実佳子
校 長 林 要喜知
本部長 稲 積 圭 一